

## 【課題】

B-1 これからの時代に求められる資質・能力の育成

## 【現状と必要性】

(小中学校におけるICT環境の現状)

- ICT機器を活用した教育については、児童生徒に一人一台整備された学習タブレットの効率的な活用に向けて、ICT支援員2名体制を継続し、個別最適化された授業の継続を図り、オンライン学習を積極的に推進し、家庭学習の充実を推進していく。
- 児童生徒の情報活用能力を育むとともに、プログラミング教育、情報モラルの育成の充実を図る。
- また、校務支援システム・グループウェアの導入により事務処理の簡素化・効率化が図られ、児童・生徒情報の一元管理により情報リスクを低減させると同時に多面的な情報活用を可能とし、教育の質の向上を図る。



ジュニアICTリーダー研修

## 【KPI】

※2023年度については、上段が2018年度設定した目標値、下段が達成値となる。

基準値  
(2018年度)

目標値・  
達成値  
(2023年度)

目標値  
(2028年度)

次世代を担う子どもたちが健やかに成長している

49.1

⇒

80.0  
62.5

⇒

76.5

## 【SDGs】



## 【基本計画】

### ■次世代に向けた教育環境の整備

将来像②：森，海，文化を活かした学びに取り組み，地域を担う人材が育っている

事業計画	期間
<p>I ICT機器を活用した教育</p> <p>① タブレット端末の活用 漢字練習アプリや計算ドリルアプリにより，朝学習や個別学習の場面で繰り返し学習することができる。</p> <p>② 教室のICT環境整備 動画や画像をみせることで学習内容を分かりやすく説明することができる。 子どもたちが情報や情報手段を適切に活用できる能力を育成すると同時に児童生徒の興味関心を高めつつ，全ての子どもにとってより分かりやすい授業を展開する。 大型提示版装置，書画カメラ，無線LAN環境 校務用パソコン，校務支援システム AIロボットの導入・AI技術の適切な活用，プログラミング</p> <p>③ Googleパートナー自治体を活かした「瀬戸内モデル」の構築。 各学校での研究実践をブラッシュアップした学習者主体の授業の充実。 Google コンテンツを活用した個別最適・協働的な学びの一体的な充実。 豊かな自然・文化遺産の発信を通しての表現力の向上，郷土教育の充実。</p> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #f0f0f0; margin-top: 10px;"> <p>関連する計画 「瀬戸内町教育情報化推進基本計画」</p> </div>	<p>令和6年度～令和10年度</p> <p>令和6年度～令和10年度</p> <p>令和6年度～令和10年度</p>
<p>II 国際理解教育</p> <p>① 外国青年招致事業 グローバル化社会を生きるために必要な資質や能力を養うことを目的にALTを活用し，英語教育を推進する。英語スピーチ大会・イングリッシュ・デイ・キャンプの実施等。</p>	<p>令和6年度～令和10年度</p>
<p>III 自然環境・景観の保全教育</p> <p>① 自然保護・環境教育の充実 せとうち出前講座への環境省職員講師派遣や世界遺産センターのインタープリテーション制度を活用しながら学ぶことによって，自然保護のこころを育むと共に「奄美大島，徳之島，沖縄北部及び西表島」世界自然遺産登録に興味を持ち，自ら考え行動できる児童生徒を育成する。</p> <p>② せとうち子ども検定試験 町内に残された貴重な自然・文化・歴史等を次代を担う子どもたちに伝える。</p>	<p>令和6年度～令和10年度</p> <p>令和6年度～令和10年度</p>

【課題】

B-2 子どもを育てる施設・環境

【現状と必要性】

(給食の現状)

- ・加計呂麻島への給食配送は、悪天候によるフェリーの欠航等により配送車での配送が困難な場合があり、貸切船や公用車等の代替手段にて配送をしている。
- ・請島・与路島では、自校給食を実施しているが、給食調理員の確保等、安定した学校給食の提供が課題となっている。



令和4年度 完成  
 学校給食センター  
 鉄筋コンクリート造  
 敷地面積 3738.68㎡  
 建築面積 1429.25㎡  
 調理能力 1日最大1,000食

(学校施設の現状)

- ・学校施設の現況については、築後40年以上経過した校舎及び体育館等が全体の大部分を占めており、雨漏りや外壁等のコンクリートの剥離など、老朽化が進んでいる。  
 教員住宅についても、老朽化が進み、その維持改修に多くの費用を要している。

【KPI】

※2023年度については、上段が2018年度設定した目標値、下段が達成値となる。

基準値  
(2018年度)

目標値・  
達成値  
(2023年度)

目標値  
(2028年度)

子どもの教育について、学校・家庭・地域の連携がとれている 31.9 ⇒ 55.0 / 41.2 ⇒ 61.7

【SDGs】



## 【基本計画】

### ■教育環境の整備充実

事業計画	期間
<p>I 給食センターの機能充実（官民連携も含む）</p> <p>① 給食センターの運営 学校給食の安全供給に努める。</p> <p>② 「食育」の拠点としての活用 学校・家庭・地域と連携・協力し「食育」の情報発信に努める。</p> <p>II 学校施設等の充実</p> <p>① 小中学校の校舎及び体育館，教員住宅の改修 児童生徒が安全で安心した学校生活を送れるよう，児童生徒数の推移や学校間の均衡をはかりながら改築及び大規模改修事業を実施する。</p> <p>② 教育環境の整備 児童生徒の学力の向上等に向け，必要な整備を行う。学習教材，教室環境等</p> <p>III 「知・徳・体」の調和のとれた児童生徒</p> <p>① 心豊かな人材の育成 子どもたちが安全で安心して活動できる居場所（活動拠点）づくりの充実を図る。 放課後子ども教室，学童保育，特別支援員等</p> <p>IV 児童・生徒の減少対策</p> <p>① 児童・生徒留学制度への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・にほんの里・加計呂麻留学制度</li> <li>・与路小・中学校留学里親制度</li> </ul> <p>町外に住む家族等が，加計呂麻島，請島，与路島へ転入し，自然豊かな島で地域の人々との触れあいを通して，子どもたちの豊かな人間性を育む。経済的負担を軽減する。</p> <p>② スクールバスの運行 児童生徒の通学負担の軽減を図る。</p>	<p>令和6年度～令和10年度</p> <p>令和6年度～令和10年度</p> <p>令和6年度～令和10年度</p> <p>令和6年度～令和10年度</p> <p>令和6年度～令和10年度</p> <p>令和6年度～令和10年度</p> <p>令和6年度～令和10年度</p>

関連する計画

「瀬戸内町教育振興基本計画」

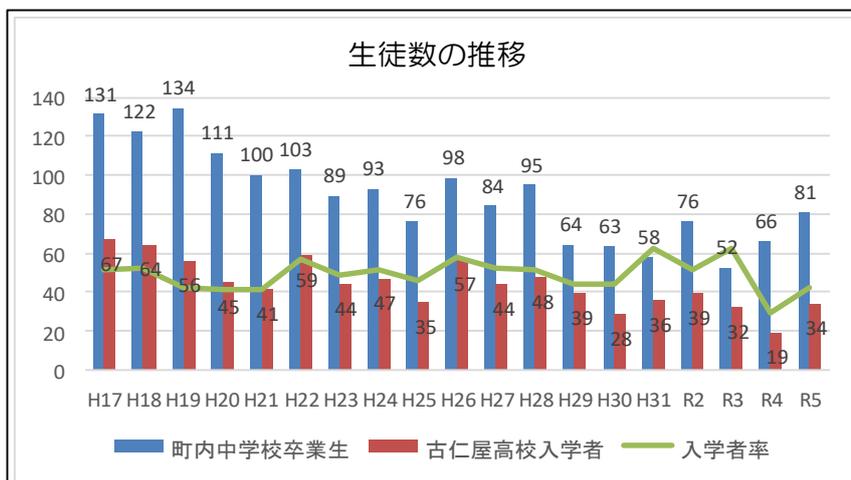
【課題】

B-3 古仁屋高等学校の活性化

【現状と必要性】

(古仁屋高等学校生徒数の推移)

- ・古仁屋高等学校への入学希望者が減少している。
- ・人口減少に伴い、町内中学生も減少している。
- ・現状の推移をたどると、生徒数は100名を切ることが予想される。
- ・生徒数が少ないと生徒が望む部活動が維持できない。



(古仁屋高等学校生徒の活動支援)

- ・古仁屋高等学校への支援（助成事業・給付型奨学金）は今後も必要である。
- ・支援（助成事業・給付型奨学金）について、早めに町内、近隣の町村へPR。
- ・今後も持続可能な地域みらい留学生の受け入れが必要。
- ・地域の伝統文化や自然環境等を学び、地域に貢献できる人材育成に支援。

【KPI】

※2023年度については、上段が2018年度設定した目標値、下段が達成値となる。

基準値  
(2018年度)

目標値・  
達成値  
(2023年度)

目標値  
(2028年度)

次世代を担う子どもたちが健やかに成長している

49.1

⇒

80.0  
62.5

⇒

76.5

【SDGs】



【基本計画】

■古仁屋高等学校の振興対策

将来像②：森，海，文化を活かした学びに取り組み，地域を担う人材が育っている

事業計画	期間
<p>I 通学が困難な生徒の受入体制</p> <p>① 学生寮等の整備・運営 町外をはじめ，加計呂麻島・請島・与路島など，高校へ通学が困難な生徒を受け入れるため，学生寮の充実を図る。下宿受入先も募集する。</p> <p>② ふるさと留学補助 高校へ子どもを送り出す保護者の経済的負担軽減のため，留学に係る費用の一部を支援する。</p> <p>II 地元中学生等の入学率向上</p> <p>① 町内中学生及び保護者に向けた説明会 町内中学校卒業生の古仁屋高等学校入学率を引き上げることを目指す。</p> <p>② 小中学校等との交流連携活動の推進 ・小中学生とのスポーツ交流 ・地域課題を考える場の設置（ワークショップ） ・青年団など地域の大人との連携</p> <p>③ 町外中学生等へ向けたPR活動 郷友会等で本町2世・3世へも入学の呼びかけを行う。</p> <p>III 古仁屋高等学校振興対策</p> <p>① 生徒の通学等に係る支援 古仁屋高等学校に通学する生徒の交通経費を軽減する。</p> <p>② スポーツ・文化活動等に係る支援 古仁屋高等学校生の健全な育成と教育の振興をとおして豊かで個性ある町づくりに資する人材育成を図る。</p> <p>③ 古仁屋高等学校地域応援団補助 古仁屋高等学校の魅力化向上に資する事業に対し支援する。</p> <p>④ キャリア教育推進に係る支援 総合的な探究の時間や授業で学んだことを発表するコンテスト等に参加する旅費の一部や郷土学習・自然学習の交通費の支援。 GIGAスクール構想に対応した学習ソフトの支援</p> <p>⑤ その他振興対策に資する支援 修学旅行費助成，各種検定試験等受験助成</p> <p>⑥ 古仁屋高等学校振興対策協議会 古仁屋高等学校の振興・発展を支援するための様々な事項について検討する。</p> <p>⑦ 地域学校協働活動の推進 地域の次世代を担う若者を育成するため「地域学校協働活動」に取り組み，古仁屋高校の活性化と次世代の人材育成による地域力強化を図る。 「文科省：学校を核とした地域力強化プラン」の活用。</p>	<p>令和6年度～令和10年度</p>

## 【課題】

## B-4 生涯学習環境の充実と伝統文化の継承

## 【現状と必要性】

## (生涯学習の重要性)

- ・現在、本町の生涯学習の基本的な方向性としては、「生きる喜びを育む生涯学習」、「郷土の心を伝える文化活動」を力点として、きゅら島交流館、図書館郷土館、埋蔵文化財センターなどの施設において、講座・教室・講演会等、各年齢層に応じた様々な取り組みを実施している。
- ・近年の社会を取り巻く環境は、少子高齢化、高度情報化、価値観の多様化などにより大きく変化する中、「心の豊かさ」や「生きがい」などを求めて、人々の学習に対するニーズはますます増大し、生涯学習への関心は高まりを見せている。
- ・今後の生涯学習の実施にあたっては、様々な学習機会の提供や学習の成果を生かす環境づくりなど、公民館活動や地域コミュニティ活動の充実を図り、総合的な生涯学習環境づくりを進めていく必要がある。



瀬戸内町きゅら島交流館  
(平成30年3月完成)

## 【KPI】

※2023年度については、上段が2018年度設定した目標値、下段が達成値となる。

	基準値 (2018年度)		目標値・ 達成値 (2023年度)		目標値 (2028年度)
伝統文化や郷土を大切にしている	64.3	⇒	75.0 66.1	⇒	78.6
生涯学習の場が充実している	29.0	⇒	50.0 34.3	⇒	55.1

## 【SDGs】



【基本計画】

■さまざまな分野において生涯にわたり学習できる環境づくり

将来像②：森，海，文化を活かした学びに取り組み，地域を担う人材が育っている  
 将来像⑤：文化・民俗を大切にしながら，教育や観光に積極的に活用している

事業計画	期間
I 島口，伝統文化の継承・支援等 ① きゅら島交流館活動 町民が生涯学習を行える場として，シマの伝統文化等が継承されている。 子ども島口伝統芸能大会，公民館講座など	令和6年度～令和10年度
II 読書をととした生涯学習 ① 図書館活動 ブックスタート，セカンドブック等 生涯にわたり自ら学び考える人格育成のため，幼少期からの読書体験を重要視する。	令和6年度～令和10年度
III 自然体験をととした生涯学習 ① 子ども会活性化プロジェクト 奄美の自然や文化を体験できる機会を提供し，多様な友達関係や地域との交流または，学校では得られない社会学習活動を展開する。 ②せとうち生涯学習プロジェクト（仮） 地域独自の文化や民俗と自然環境とのつながりについて理解し，保全や継承，産業等への活用に向けた意識啓発や教育を推進する。	令和6年度～令和10年度
IV 総合芸術による生涯学習 ① 演劇教育の推進 「せとうちシアター塾」の開催を機に，各種講座で行っている演劇等コースの充実化を図り，演劇教育の継続化を目指す。	令和6年度～令和10年度
V 埋蔵文化財の発掘・保全の促進 ① 近代遺跡（戦跡）調査 文化財の発掘，調査・保存等に努め，文化財保護についての普及啓発活動に取り組む。 ② 国指定史跡の保存・活用 国指定史跡「奄美大島要塞跡」の保存・整備について，町民や関係機関と連携・協力し，観光振興や地域活性化に資する取組を講じる。 ③瀬戸内町埋蔵文化財センター調査研究事業 瀬戸内町埋蔵文化財センターを中心とした，調査研究や国内外の近代遺跡を有する自治体および研究者との情報共有・交流事業の推進によって，文化・民俗，遺跡等の価値化，観光等への活用を促進する。	令和6年度～令和10年度
VI スポーツをととした生涯学習 ① 生涯スポーツの充実 子どもから高齢者まで「町民ひとり1スポーツ」を推進し，健康増進や生涯スポーツの充実を図る。 せとうち満天クラブ，プレ・ゴールデンエイジ	令和6年度～令和10年度
VII 生涯学習における人材育成 ① 生涯学習リーダー育成 活力ある地域づくりのために自ら主体的に取り組む社会教育関係団体の指導者等を育成する。 シニア世代のチカラを地域の活力に活かす。	令和6年度～令和10年度

## 【課題】

## B-5 気軽にスポーツを楽しめる環境

## 【現状と必要性】

(スポーツを楽しむ環境の現状)

- ・現在、町民の「スポーツ・レクリエーション」活動の場として、広く利用されている「清水公園」の運動施設は、陸上競技場、総合体育館、テニスコート、遊具施設等で構成されており、健康増進・生涯スポーツの拠点施設として機能している。しかしながら、当該施設においては、設置から今日まで約40年が経過し、施設の老朽化等から、町民や競技団体から施設の整備に関する要望も多く、特に、陸上競技場や総合体育館は、大規模改修等が必要な状況となってきた。

このようなことから、各種施設の改修など、必要に応じて検討し、利用者のニーズに応える必要がある。



## 【清水公園の現状】

陸上競技場（昭和60年建設）

陸上400mトラック、野球、ソフトボール、サッカー、ラグビー等

総合体育館（平成元年建設）

バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球等

テニスコート

オムニコート6面

遊具施設

## 【清水公園の利用】

町民体育大会の開催、大島地区大会の開催、スポーツ少年団の利用等

## 【KPI】

※2023年度については、上段が2018年度設定した目標値、下段が達成値となる。

基準値  
(2018年度)

目標値・  
達成値  
(2023年度)

目標値  
(2028年度)

みんなが気軽にスポーツを楽しめる環境が整っている

27.7

⇒

45.0  
28.3

⇒

44.8

## 【SDGs】



【基本計画】

■ 清水運動公園の整備

事業計画	期間
<p>I 運動を楽しむための施設整備</p> <p>① 清水公園の総合的な見直しの実施 施設の老朽化が著しく、年次的に改修を行い、求められる機能の充実化を図る。また、子どもの遊び場である遊具については、すべての子ども達が多様な仲間達と平等に遊べる環境を整備する。</p> <p>② 清水公園の環境整備 「町民一人1スポーツ」を推進し、健康増進や生涯スポーツの充実を図るため、清水公園のより豊かなスポーツ環境の整備を図る。また、町民の健康維持増進、生きがいづくり、世代間の交流または、スポーツ競技者の競技力向上に資する施設として位置付ける。</p> 	<p>令和6年度～令和10年度</p> <p>令和6年度～令和10年度</p>
<p>II 運動を楽しむための活動及び人材育成</p> <p>① スポーツ・レクリエーションの推進 青少年の健全育成や町民の心身ともに健やかな生活確保のため、誰もが自分の健康状態や年齢、体力に合わせてスポーツを楽しみ、世代間の交流が図れる活動に取り組むとともに、次世代の人材を育成していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進委員の活動促進</li> <li>・スポーツ講演会の実施</li> <li>・ニュースポーツの普及</li> <li>・スポーツ少年団の育成</li> <li>・マ스ゲーム講習会等への参加</li> <li>・競技スポーツの振興</li> </ul>	<p>令和6年度～令和10年度</p>